

プレートコンパクター

MVC-75F
MVC-90G

取扱説明書



三笠プレートコンパクターをお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



三笠産業株式会社

401-01806

目 次

1	はじめに -----	1
2	機械の用途と警告、及び構造と動力伝達 -----	1
3	警告サイン -----	2
4	安全のための注意事項 -----	2
	4.1 一般的な注意事項	2
	4.2 給油中の注意事項	2
	4.3 使用場所、換気に関する注意事項	3
	4.4 作業前の注意事項	3
	4.5 作業中の注意事項	3
	4.6 リフティング時の注意事項	3
	4.7 運搬・保管に関する注意事項	3
	4.8 整備上の注意事項	3
	4.9 ラベルの取付位置図	4
	4.10 警告ラベルの絵文字説明	5
5	外観図 -----	6
	5.1 外観寸法図	6
	5.2 コントロール装置位置及び装置名称	7
6	仕様 -----	8
	6.1 本体仕様	8
	6.2 エンジン仕様	8
7	運転前点検 -----	9
8	運転 -----	11
	8.1 始動	11
	8.2 運転	12
9	停止 -----	12
10	輸送 -----	13
	10.1 積み込み、積み下ろし	13
	10.2 運搬に関する注意事項	13
11	保管 -----	13
12	定期点検と調整 -----	14
13	トラブルシューティング -----	15

1. はじめに

- この取扱説明書は、プレートコンパクターの正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて記載してあります。本機の優れた性能を生かし、お仕事の能率を上げ効果的な作業を進める為に、**ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さい。**
- お読みになった後も**必ずお手元に保管**し、分からない事があった時には取り出してお読み下さい。
- エンジンの取扱に関しては、別途**エンジン取扱説明書**を参照して下さい。
- 補修部品、パーツリスト、サービスマニュアル及び修理に関しては、販売店・当社各営業所もしくは三笠部品サービスセンターにお問い合わせ下さい。なお、パーツリストは当社ホームページ <http://www.mikasas.com/> の三笠 WEB パーツリストでも公開しております。是非ご利用下さい。

この取扱説明書に記載されているイラストが、設計変更等により一部実機と異なる場合があります。

2. 機械の用途と警告、及び構造と動力伝達

【用途】

起振体の一軸振動を輾圧盤を介して地面に伝え、表面を平坦にする機械です。土砂及び砂利の敷き均しや、アスファルト舗装の仕上げ作業等表面を平坦にする作業に適します。

【誤用途、誤使用の警告】

水分の多い地面、特に粘土質の現場では、機体が進行せず作業に適しません。また、大きな石が含まれた土質の場合、輾圧力が不足し敷き均しが出来ません。

本機は表層を平坦にする機械であり、締め固めを重視する現場には適しません。下層まで締め固めが必要な場合は、ランマー、バイブロコンパクター、振動ローラー等締め固め効果が大きい作業機を使用して下さい。

本機は土砂、土、砂、及びアスファルトの輾圧に使用します。それ以外の作業に使用してはいけません。

【構造】

機体上部は、エンジン、ハンドル、ベルトカバー、散水タンク(MVC-90G)及びガードフックで構成されており、これらを固定するエンジンベースは輾圧盤に防振ゴムを介して固定されています。機体下部は輾圧盤と起振体で構成され、起振体には一個のアンバランスシャフト(振子軸)が内臓されています。このアンバランスシャフトには、上部のエンジン出力軸に取り付けられた遠心クラッチからVベルトを介し動力が伝達されます。

【動力伝達】

原動機として4サイクル空冷単気筒ガソリンエンジンを搭載し、エンジン出力軸には遠心クラッチが取り付けられています。

エンジン回転数を上げる事により、遠心クラッチが繋がり、クラッチドラムと一体のVプーリー・Vベルトを介して起振体Vプーリーと連結し、エンジン回転数を輾圧に適した回転数に変換します。

起振体Vプーリーは、輾圧盤に固定された起振体ケース内に設けられた一個のアンバランスシャフト(振子軸)を回転させ、それによって生じる振動を輾圧盤に伝達させます。

輾圧盤の振動で機体は前進し、振動と本機の重量で地面の輾圧・均し作業を行います。

3. 警告サイン

本取扱説明書及び本機に貼り付けてあるラベルの⚠マークは警告サインです。安全上、必ず厳守して下さい。

⚠ 人体に対する危険がある場合の警告サイン

⚠ 危険 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が極めて高い場合

⚠ 警告 指示を守らないと、死亡又は重大な傷害事故が生じる危険性が有り得る場合

⚠ 注意 指示を守らないと、怪我や障害事故が生じる可能性がある場合

注意 (⚠マーク無し) 指示を守らないと、物的な損害が発生する可能性がある場合

4. 安全のための注意事項

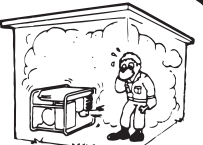
4.1 一般的な注意事項

⚠ 警告	●こんな時は作業をしない。 ○過労や病気等で体調が悪い時。 ○薬物を服用している時。 ○飲酒をした時。	
⚠ 注意	●取扱説明書を良くお読み頂き、正しい取扱で安全に作業を行って下さい。 ●エンジンの取扱は別紙エンジン取扱説明書を参照して下さい。 ●本機の構造を充分理解して下さい。 ●作業を安全に行うために、防護具（ヘルメット、安全靴、耳栓等）を着用し、適切な作業服で作業して下さい。 ●常に本機を点検し、正常であることを確認してから運転して下さい。 ●本機の貼付銘板（操作方法・警告銘板等）は安全を守るために非常に重要です。本機を清掃し、常に読みやすい状態を保って下さい。読みにくくなった場合は、新しい銘板に交換して下さい。 ●幼児等が触れると大変危険です。保管方法、保管場所には充分注意して下さい。 ●点検・整備する場合は必ずエンジンを停止させ、水平な場所で行って下さい。 ●改造や修正を加える事で発生した如何なる事故に関しても、当社は一切責任を負いません。	

4.2 給油中の注意事項

⚠ 危険	●燃料を給油する時 ○必ず換気の良い場所で行って下さい。 ○必ずエンジンを停止させ、エンジンが冷えてから給油して下さい。 ○周囲に可燃物の無い平坦な場所を選び、こぼさないように注意して下さい。こぼれたら良く拭き取って下さい。 ○給油中は絶対に火気を近付けないで下さい。（特にタバコを吸いながらの給油は厳禁） ●燃料は口元一杯まで入れるとこぼれる可能性があります。給油レベルはエンジン取扱説明書に規定された量を守って下さい。 ●給油後は、タンクキャップをしっかり締め込んで下さい。	
-------------	---	---

4.3 使用場所、換気に関する注意事項

 危険	●室内、トンネル内等換気の悪い場所では使用しないで下さい。エンジンの排気ガスには、有害な一酸化炭素等が含まれており、大変危険です。 ●火気のある傍での運転はしないで下さい。	
--	---	---

4.4 作業前の注意事項

 注意	●各部分の締付具合を点検して下さい。振動でネジが緩んでいと思わぬ大きな故障の原因となります。ネジはしっかりと締め付けて下さい。	
--	---	--

4.5 作業中の注意事項

 注意	●本機を始動したり作業する時は、周囲の人や障害物に対して安全である事を確認して下さい。 ●常に足場に注意し、機械のバランスを保てる無理の無い安定した姿勢で作業して下さい。 ●エンジン本体、マフラーは高温になりますので、運転時及び運転直後等の熱い時には触れないように注意して下さい。 ●運転中に本機の調子が悪くなったり、異常に気付いた場合は直ちに本機を停止させ作業を中止して下さい。 ●本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止させて下さい。また本機を移動させる時もエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。	
--	--	---

4.6 リフティング時の注意事項

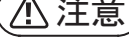
クレーンによる積み下ろし作業は資格が必要です。クレーンの運転・玉掛け作業の資格がある人が行って下さい。

 危険	●吊り上げ作業に対し、本機部品（特にフック・防振ゴム）の損傷やネジの緩み・脱落が無く安全である事を確認して下さい。 ●吊り上げ時はエンジンを停止させ燃料コックを閉じて下さい。 ●強度の充分なワイヤーロープ等を使用して下さい。 ●吊り上げ作業は一点吊りフックのみ使用し、その他の場所（ハンドル等）での吊り上げ作業はしないで下さい。 ●本機を吊り上げた際、下には絶対に人や動物を入れないで下さい。 ●安全の為、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。	
--	--	--

4.7 運搬・保管に関する注意事項

 警告	●運搬時はエンジンを停止させて下さい。 ●エンジン及び本機がよく冷えてから運搬して下さい。 ●運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。 ●本機が動いたり、倒れたりしないようしっかりと固定して下さい。	
--	--	--

4.8 整備上の注意事項

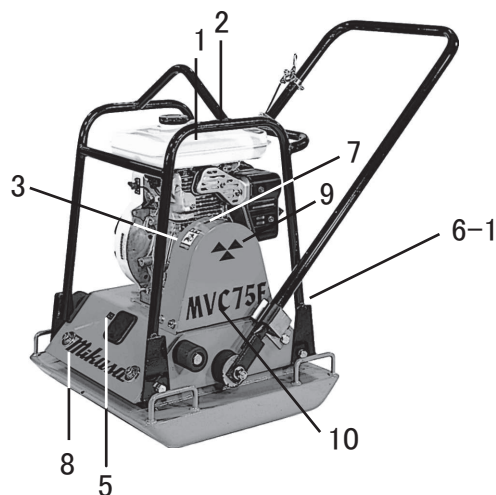
 注意	●安全を確保し、本機の性能を維持する為に、適切な整備が必要です。本機の状態を充分留意し、良好な状態を維持して下さい。特に、リフティング関連部品の不適切な整備は重大事故の原因となります。 ●本機の温度が下がってから作業を行って下さい。特にマフラーは高温になり、火傷をするおそれがあります。またエンジンやエンジンオイル、起振体等も熱くなりますので、火傷をしないよう充分注意して下さい。	
--	---	---



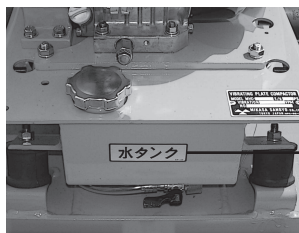
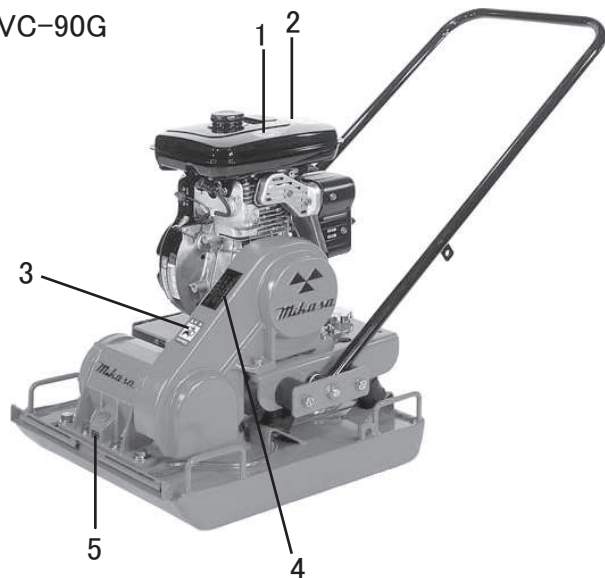
- 点検調整は、必ずエンジンが停止した状態で行って下さい。回転部に巻き込まれ、重大な傷害を負う危険性があります。
- 整備終了後、保安部品の取付及び安全性の確認を行って下さい。特に、ボルト・ナットの点検は充分行って下さい。
- 分解を伴う整備を行う場合は、必ず整備解説書を参照し、安全に作業を行って下さい。

4.9 ラベルの取付位置図

MVC-75F



MVC-90G



5 : 9201-04950 → この数字は部品コードです。
銘板、取扱注意 注文の際にご利用下さい。



1 : 9202-03330
銘板、騒音保護・防止



2 : 9201-08350
銘板、取扱説明書熟読



3 : 9201-08360
銘板、回転部接触禁止

取扱注意

1. 使用前に次の事項を点検して下さい。
 - エンジンオイル量
エンジンオイル SAE#10W ~ 30
 - 起振体オイル量
口元まで一杯入れて下さい。
エンジンオイル SAE#10W ~ 30
2. エンジン始動後暖機運転を行って下さい。
NP-495

4 : 9201-04950
銘板、取扱注意

5 : 9202-01950
銘板、E/G OIL 10W-30

6-1 : 9201-08440
銘板、製番 MVC-75F

6-2 : 9201-02760
銘板、製番 MVC-90G

7 : 9202-05060
銘板、V ベルト HDPF-5310

8 : 9201-01580
銘板、MIKASA(200)

9 : 9201-00920
銘板、三笠マーク (40)

10 : 9201-08450
型式銘板 (MVC-75F)

11 : 9201-00300
銘板、水タンク

4.10 警告ラベルの絵文字説明



騒音による聴覚障害に注意

- ・本機運転中は、必ず耳栓やイヤーマフを着用して下さい。



・取扱説明書熟読

- 運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解して下さい。



・回転部接触禁止

- 回転中のクラッチやプーリー、Vベルトには絶対に手を触れないで下さい。ベルトカバーを外しての運転はお止め下さい。

エンジン付属銘板



①火気厳禁

給油時は必ずエンジンを停止させて下さい。給油口に火気を近づけると火災の危険があります。

②排気ガス中毒に注意

排気ガスを吸うと一酸化炭素中毒等を引き起こす危険性があります。換気の悪い場所では運転しないで下さい。

③マフラー高温注意

マフラー及びその周辺に触れないで下さい。

④取扱説明書熟読

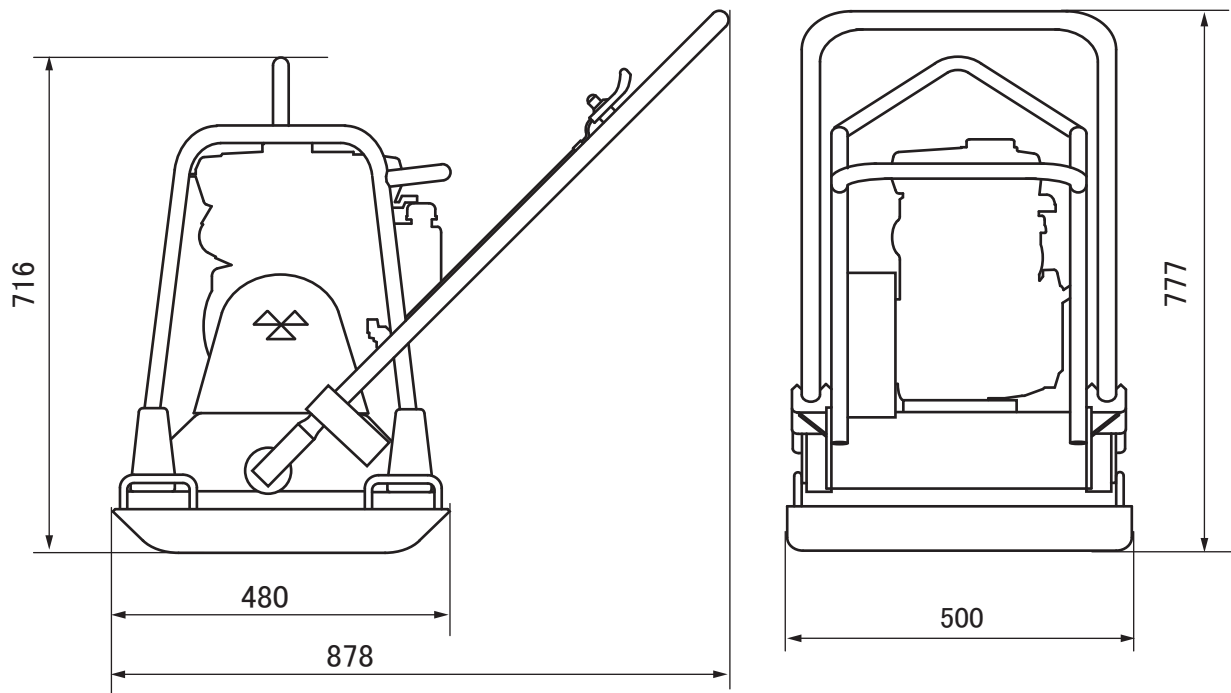
運転前に必ず取扱説明書をよく読み、操作内容を充分理解して下さい。

⑤燃料はガソリンを使用

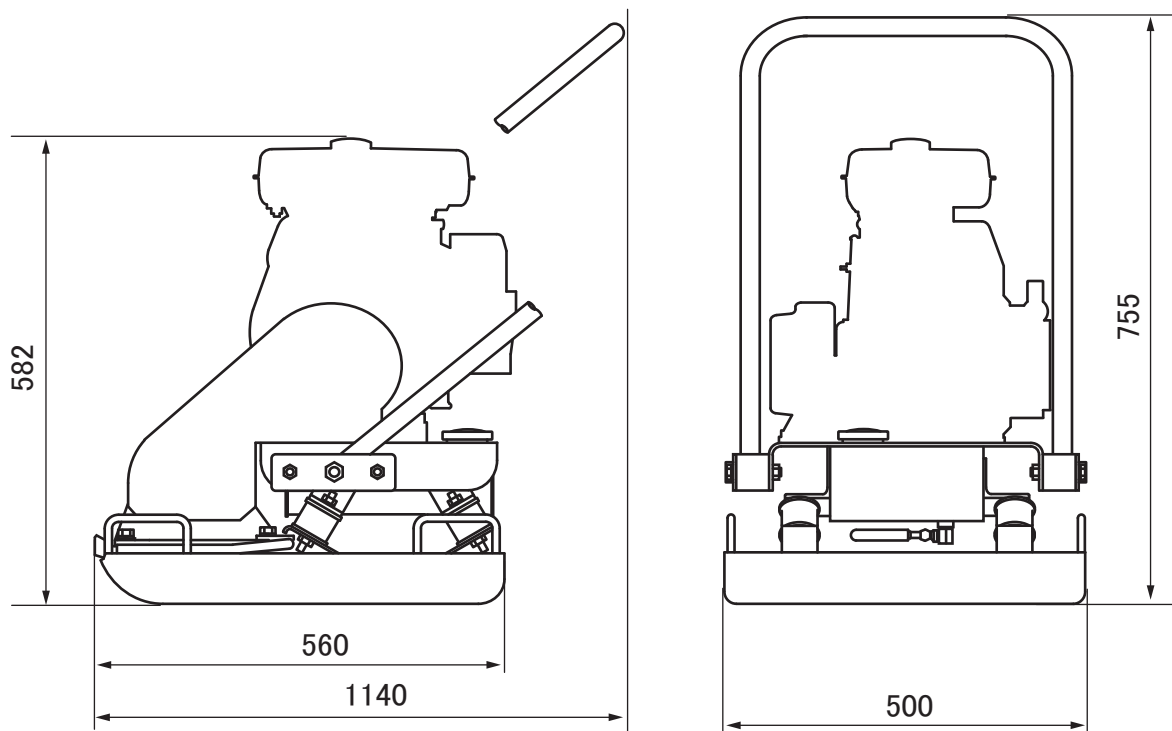
5. 外觀図

5.1 外觀寸法図 (mm)

5.1.1 MVC-75F

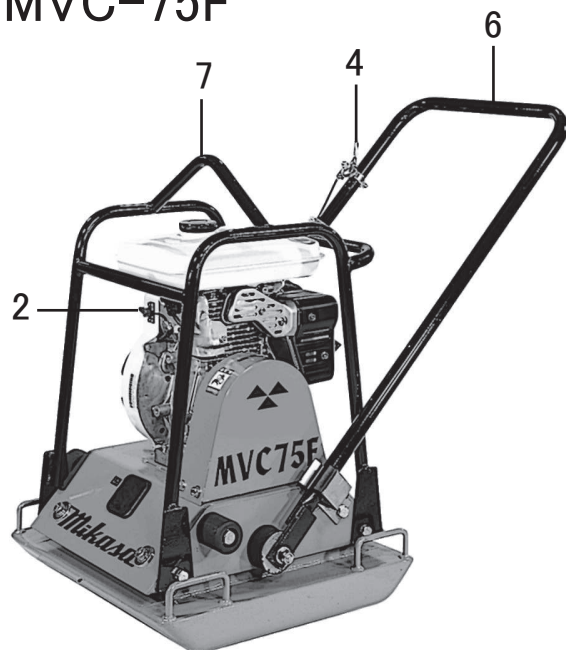


5.1.2 MVC-90G

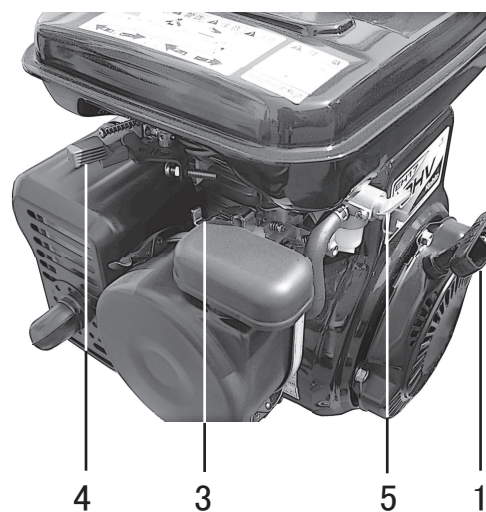


5.2 コントロール装置位置及び装置名称

MVC-75F



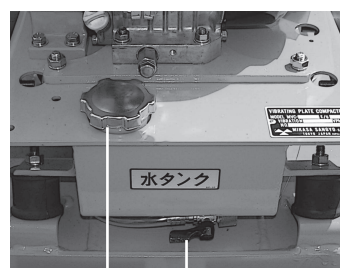
エンジン（共通）



MVC-90G



- 1 始動ノブ
- 2 ストップスイッチ
- 3 チョークレバー
- 4 調速レバー
- 5 燃料コック
- 6 ハンドル
- 7 ガードフック



散水コック
水タンクキャップ

6. 仕様

6.1 本体

型 式	MVC-75F	MVC-90G
搭載エンジン	ロビン EH17	←
主 要 寸 法		
全 長	900mm	1,140mm
全 幅	500mm	500mm
全高（ハンドル）	801mm	755mm
輾圧盤（長さ × 幅）	480X500mm	560X500mm
性 能		
振 動 数	107Hz(6,400vpm)	97Hz(5,800vpm)
遠 心 力	14.7kN(1,500kgf)	15.2kN(1,550kgf)
速 度	22 ~ 24m/min	20 ~ 25m/min
起振体オイル量	120cc	140cc
起振体オイル	SAE10W-30	←
機 械 質 量	86kg	87kg
水タンク容量	—	5.3L
使用 V ベルト	HDPF5310	A-34
セット回転数	4,000rpm	3,600rpm

6.2 エンジン

型 式	ロビン EH17-2D
機 関 型 式	空冷 4 サイクルガソリンエンジン
行 程 容 積	172cc
最 大 出 力	3.7kW/3,600m ⁻¹ 5.0PS/3,600rpm
冷 却 方 式	強制空冷式
使用潤滑油	自動車用エンジンオイル（SE 級以上） SAE#20 ~ #30（寒冷時 10W-30）
潤 滑 油 量	0.65L(650cc)
使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量	3.6L
使用点火栓	NGK B6HS

7. 運転前点検

⚠ 危険

エンジンが停止した状態で点検を行ってください。
回転部に巻き込まれますと、重大な傷害を負う
危険性があります。
本機を水平にし、機体が動かない事を確認して
から点検して下さい。

★ 作業前の点検箇所は 14 ページに記載されてい
る「各部点検スケジュール表」を参照して下さい。
初回使用時に限り、スケジュールに関わらず下
記・次頁の点検を実施して下さい。

- 1 各部を綺麗に掃除し、泥・埃の無いように手入
れをして下さい。
特に輾圧盤の底面に付着した泥、エンジンの冷
却風吸入口、気化器及びエアクリーナーの周辺
は綺麗にして下さい。
- 2 各部の締付ネジが緩んでいないか確認して下さ
い。振動のためネジが緩んでいると思わぬ事故
や故障の原因となります。
- 3 ガードフック、ベルトカバー、防振ゴムを点検し、
破損が無いか確認して下さい。
- 4 V ベルトの緩みを点検して下さい。張りの具合は
両軸の中間の所を強く指で押して 10 ～ 15mm 位
たわむように張ってあれば正常です。
V ベルトが緩んでいますとエンジン動力の伝達が
悪く、輾圧力が少なくなり、V ベルトの寿命も短
くなります。また発生する輾圧力が小さいのでエ
ンジンの回転を上げると不整振動が発生し故障の
原因となります。
- 5 エンジンを水平にしてオイルを点検し、不足して
いる場合は補充して下さい。（図 1）
エンジンオイルは下記の表に記載されている物を
使用して下さい。

	温度	使用オイル (SE 級以上)
夏	25℃以上	SAE#30
春・秋	25 ～ 10℃	SAE#30、#20
冬	10 ～ 0℃	SAE#20
	0℃以下	SAE#10

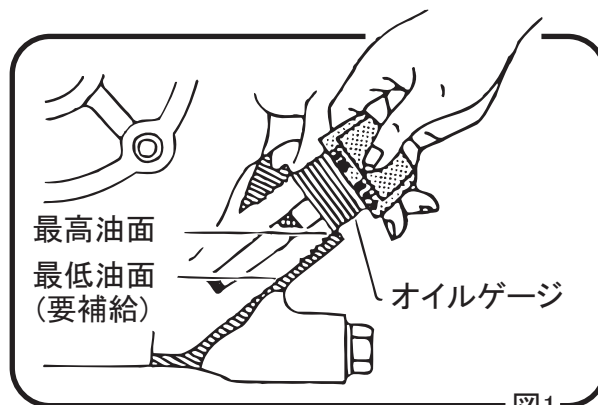


図1

- 6 MVC-90G の起振体オイルは、本機を水平にして起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイルが口元まで入っているか確認して下さい。オイルレベルプラグは起振体ケース前部にあります。(図 2)

MVC-75F の起振体オイルは、本機を水平にし本機でエンジンベース前部のゴムキャップを外し、起振体ケース前部のオイルゲージを外して確認して下さい。(図 3)

起振体オイルはエンジンオイル #10W-30 を使用して下さい。油量は MVC-75F が 120cc、MVC-90G が 140cc です。

起振体オイルは一ヶ月又は 200 時間運転毎にプラグを外し、本機を傾けて全て排出させ、新しい物と交換して下さい。



図 2

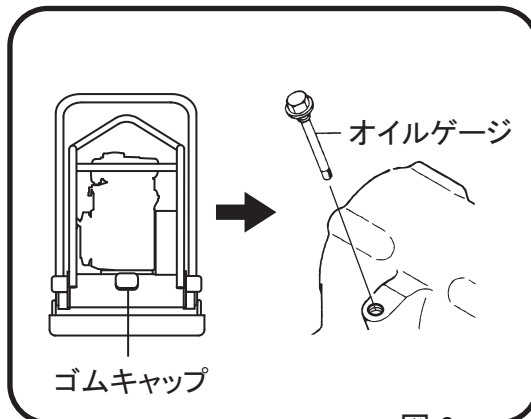


図 3

- 7 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。燃料を入れる場合は必ずフィルターを通して濾過しながら入れて下さい。

⚠ 危険 エンジンのかけたままで絶対に給油しないで下さい。
火災の危険があります。

⚠ 危険 燃料補給中は絶対にタバコを吸ったりその他火気を近付けないで下さい。
火傷や火災等重大な危険を引き起こす恐れがあります。

⚠ 危険 燃料を補給する時は周囲に可燃性の無い場所を選び、燃料をこぼさぬ様注意して下さい。もしこぼれたら良く拭き取って下さい。

- 8 散水作業の場合は水タンクに注水して下さい。(MVC-90G のみ)
給水口はエンジンベース後部にあります。(図 4)

注 意 水以外を入れてはいけません。水以外の液体を入れると、樹脂・タンクキャップシール等の劣化、膨張の恐れがあり漏れや破損の原因となります。

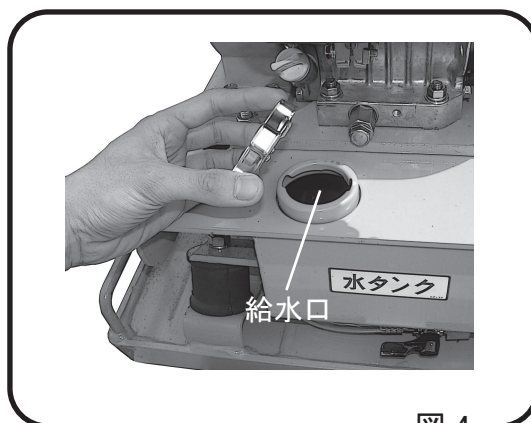


図 4

8. 運転

8-1 始動

- 1 燃料コックのレバーを下にして、燃料を通します。
(図 5)

⚠ 警告 エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれており大変危険です。
換気が悪い所では使用しないで下さい。

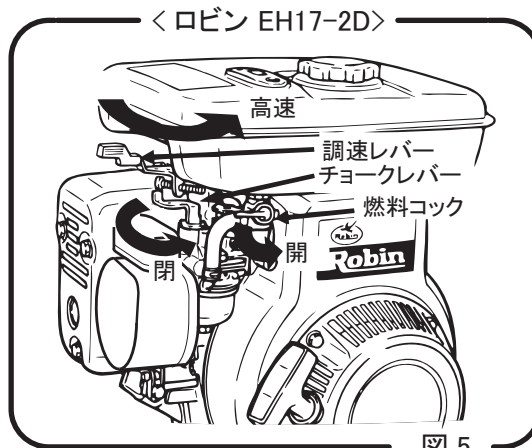


図 5

- 2 ストップスイッチを“ON(I)”の位置にします。
(図 6)

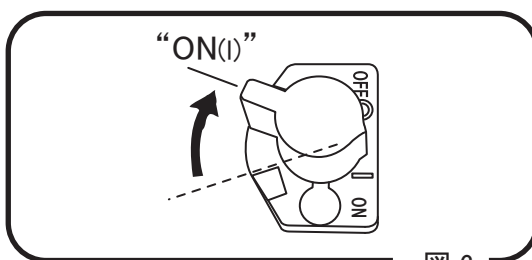


図 6

- 3 調速レバーを半開にし、寒い時やエンジンがかかりにくい時はチョークレバーを閉じます。
(図 5)
- 4 リコイルスターターの始動ノブを握り、少し引くと軽く手ごたえがあります。そこから勢い良く引張って下さい。この時、ロープを引張りすぎるとロープが切れたり抜けてしまう恐れがありますから御注意下さい。(図 7)

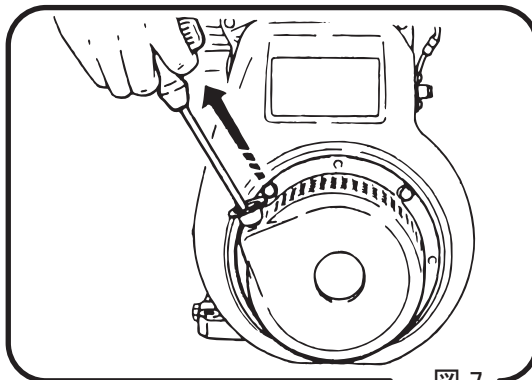


図 7

- 5 エンジンが始動したらすぐに調速レバーを戻し、爆発音を聞きながらチョークレバーを徐々に戻し全開にします。始動後は、必ず2～5分程度低速で暖機運転を行います。特に寒冷時には必ず実行して下さい。この間にガス漏れ等異常が無いか確認して下さい。

注意

調速レバーを半開のままにすると、遠心クラッチがスリップした状態となり、遠心クラッチの故障の原因になるとともに、本機が異常振動を起こし危険です。エンジンが始動したらすぐに調速レバーを低速に位置に戻して下さい。

8-2 運転

- 1 調速レバーを一気に開くと本機は振動と前進を始めます。ゆっくり開くとクラッチがスリップしてしまいますので調速レバーの開閉はためらわず一気に行って下さい。(図 5)
- 2 粘土を含む土壌で作業する場合、輾圧盤が地面から離れにくく、走行が遅くなります。このような場所では輾圧盤の底面に粘土が付着していないか点検して下さい。なお、粘土質や高含水比の土壌には本機の輾圧力が有効に働きませんので、ランマー等の輾圧機を使用するか、適正な含水比まで乾燥させて下さい。
- 3 散水作業を行う時は、水タンクのコックを開いて下さい。(MVC-90G)
- 4 運転を止める時は、調速レバーを一気に戻して下さい。

9. 停止

- 1 作業を止めてエンジンを停止させる時は、調速レバーを戻し低速回転で 3 ～ 5 分程エンジンを回してエンジンの温度が下がってからストップスイッチを“OFF(O)”側に回して下さい。(図 8) エンジンが熱い内に停止させますと、シリンダー内壁の油膜が焼けて磨耗を早める等、本機へ悪影響を与え寿命が短くなったり思わぬ故障の原因となります。
- 2 燃料コックのレバーを閉じて下さい。
- 3 散水作業を行っていた時は水タンクのコックを閉じます。

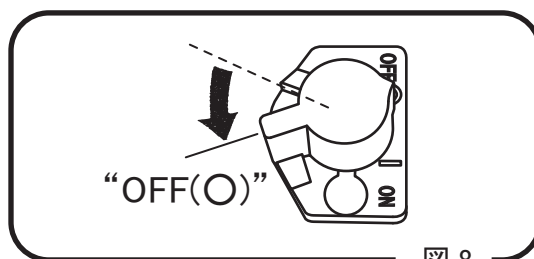


図 8

10. 輸送

⚠ 警告

- ガードフレームや防振ゴムの破損、ネジの緩み、脱落が無く安全である事を確認して下さい。
- 吊り上げの際は必ずエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。
- 強度が充分で、キンクや型崩れの無いワイヤーロープを用いて下さい。
- 真っ直ぐに衝撃をかけないようにゆっくり吊り上げ、吊り上げた本機の下には絶対に人や動物が入らないようにして下さい。
- 安全のため、必要以上の高さには吊り上げないで下さい。

10.1 積み込み、積み下ろし

クレーンによる積み込み・積み下ろし作業はクレーン・玉掛けの資格が必要です。

- 1 本機の積み込み積み下ろしはクレーン等で行って下さい。
- 2 積み込み積み下ろし作業の際は指揮者を決め、必ず指揮者の指示により作業を行って下さい。
- 3 吊り上げの際は必ずガードフックに吊り上げ具を引掛けて下さい。ハンドルに吊り上げ具を引掛けての吊り上げは絶対に行わないで下さい。

10.2 運搬に関する注意事項

⚠ 警告

- 運搬時はエンジンを停止させ、燃料コックを閉じて下さい。
- 運搬時は必ず燃料を抜いて下さい。
- 本機が動いたり、倒れたりしないようしっかり固定して下さい。

11. 保管

- 1 各部のゴミや泥を水洗いして落として下さい。
- 2 ゴミ、埃がかからないようカバーをかけて直射日光の当たらない湿気の少ない場所に格納して下さい。

(長期保管するとき)

- 3 燃料タンク、燃料パイプ、気化器の燃料は綺麗に抜き取って下さい。
- 4 給油、オイル補充・交換をもれなく行って下さい。点火栓を外してエンジンオイルを数滴シリンダ内に流し込み、数回手回しして内部に充分行き渡らせましょう。
- 5 エアクリーナー、マフラーの吸入口及び排気口をしっかり覆って下さい。
- 6 屋外に放置せず、屋内に格納して下さい。
- 7 本機を横(後)倒しにして保管しないで下さい。

12. 定期点検と調整

1. 各部点検スケジュール表

点検時期	点検箇所	点検項目	油脂類
毎日（作業前）	外観	傷、ゆがみ	
	燃料タンク	漏れ、油量、汚れ	ガソリン
	燃料系統	漏れ、油量、汚れ	
	エンジンオイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
	防振ゴム	亀裂、磨耗、破損	
	起振体オイル	漏れ	エンジンオイル
	エアクリーナー	スポンジの埃	
	ガードフック	破損、傷、ボルト・ナットの緩み・脱落	
	ボルト・ナット類	緩み・脱落	
20 時間毎	エンジンオイル	初回のみ交換	エンジンオイル
100 時間毎	エンジンオイル	交換	エンジンオイル
	起振体オイル	漏れ、油量、汚れ	エンジンオイル
200 時間毎	V ベルト	傷、張り	
	クラッチ	汚れ、傷、磨耗	
	起振体オイル	交換	エンジンオイル
2 年毎	燃料パイプ類	交換	
不定期	エアクリーナーエレメント	交換	

エンジン関係の点検及び整備につきましては、付属のエンジン取扱説明書を参照して下さい。

注）上記は標準状態での点検時間です。使用条件により内容が異なりますので御注意下さい。

ボルト・ナット類の増し締め等を行う際は、下記締付トルクー覧表に従って下さい。

締付トルクー覧表（単位：kgf・cm、1kgf・cm=9.8N・cm）

		ネジ径							
		6mm	8mm	10mm	12mm	14mm	16mm	18mm	20mm
材質	4T(SS41)	70	150	300	500	750	1,100	1,400	2,000
	6-8T(S45C)	100	250	500	800	1,300	2,000	2,700	3,800
	11T(SCM3)	150	400	800	1,200	2,000	2,900	4,200	5,600
	相手材質がアルミニウムの場合	100	300~350	650~700	(本機に使用しているネジは全て右ネジです。)				

2 エンジンオイルの交換

エンジンオイルは初回 20 時間、以後 100 時間
運転毎に交換して下さい。

3 エアクリーナーの清掃

エアクリーナーエレメントの汚れが酷くなると、エ
ンジンの始動不良、出力不足や運転への支障
の原因となるばかりでなく、エンジンの寿命を極
端に短くしますので、必ずエレメントの清掃を行っ
て下さい。汚れが取れない場合はエレメントを交
換して下さい。（詳細は別紙エンジン取扱説明
書を参照）

4 V ベルト・クラッチの点検

4-1 V ベルト

200 時間毎にベルトカバーを外し、V ベルトの張
り具合を点検して下さい。張りの具合は両軸の中
間の所を強く指で押して 10 ～ 15mm 位たわむよ
うに張ってあれば正常です。

4-2 クラッチ

クラッチの点検は、V ベルト点検と同時に行っ
て下さい。クラッチの外周ドラムの焼き付きや V 溝
の磨耗・損傷を目視で点検します。また、V 溝
が汚れている時は綺麗に掃除して下さい。
ライニングシュー等の磨耗は運転検査で確認しま
す。シューが磨耗してくると動力の伝達が悪くな
り、クラッチがスリップします。

⚠ 注意

運転中に振動が弱くなったり、エンジンは正常に
回転しても振動しない場合は 200 時間点検に関
わらず V ベルト・クラッチの点検・交換を行っ
て下さい。

6 起振体オイルの点検・交換 (10 ページ図 2、図 3 参照)

MVC-90G の起振体オイルは機体を水平にして
起振体のオイルレベルプラグを外し、起振体オイ
ルが口元まで入っているか確認して下さい。オイ
ルレベルプラグは起振体ケース前部にあります。
MVC-75F の起振体オイルは機体を水平にしてエ
ンジンベース前部のゴムキャップを外し、起振体
ケース前部のオイルゲージを外して確認して下
さい。

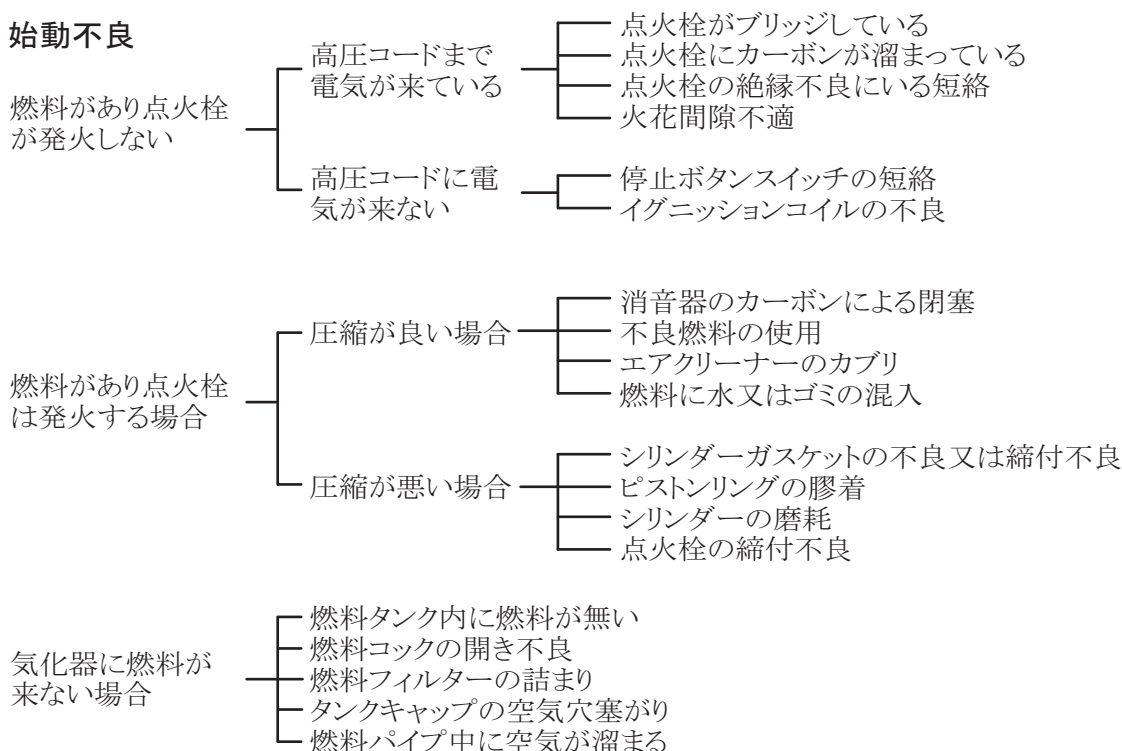
起振体オイルはエンジンオイル #10W-30 を使用
して下さい。油量は MVC-75F が 120cc、
MVC-90G が 140cc です。

起振体オイルは一ヶ月又は 200 時間運転毎にプ
ラグを外し、本機を傾けて全て排出させ、新し
い物と交換して下さい。

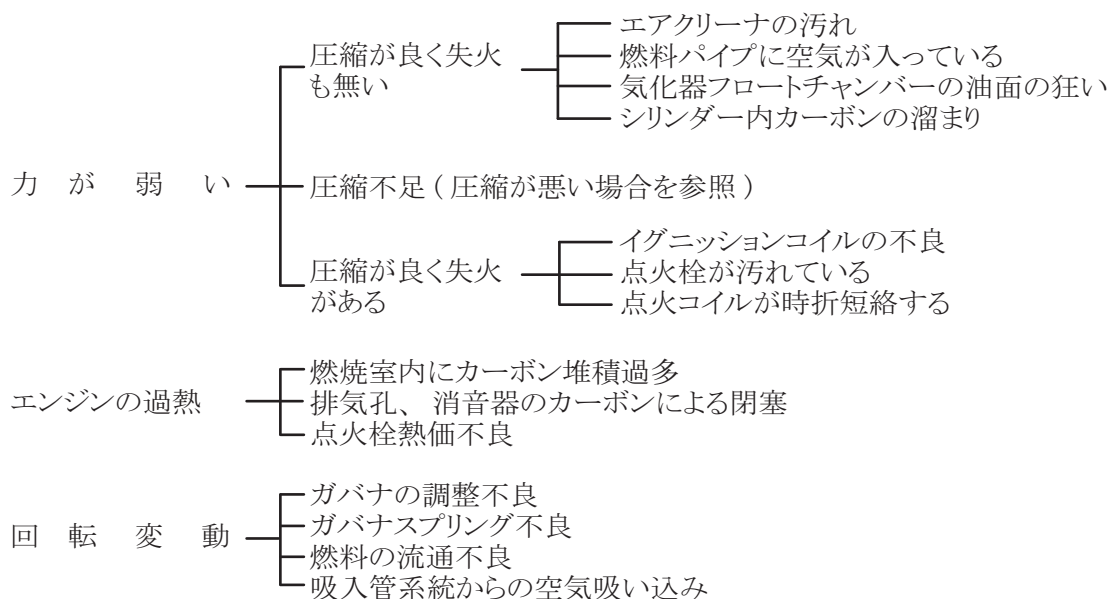
13. トラブルシューティング

13-1 エンジン

13-1-1 始動不良



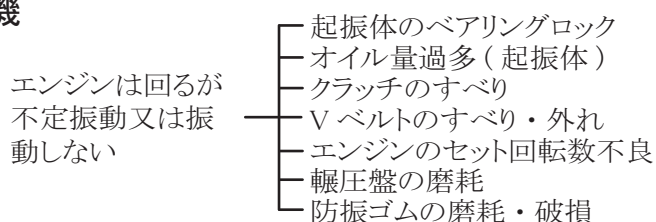
13-1-2 運転不調



13-1-3 リコイルスターターの動きが悪い

- 回転部のゴミ詰まり
- スパイラルスプリングのへたり

13-2 本機



[illegible]



MIKASA SANGYO CO.,LTD.

HEAD OFFICE

NO. 4-3. 1-CHOME, SARUGAKU-CHO, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN



三笠産業株式会社

本 社	東京都千代田区猿楽町 1丁目 4番 3号 電話 03-3292-1411 FAX 03-3233-0530	〒101-0064
大 阪 支 店	大阪市西区立売堀 3丁目 3番 10号 電話 06-6541-9631 FAX 06-6541-9660	〒550-0012
札 幌 営 業 所	札幌市白石区流通センター 6丁目 1番 48号 電話 011-892-6920 FAX 011-892-6344	〒003-0030
仙 台 営 業 所	仙台市若林区卸町 5丁目 1番 16号 電話 022-238-1521 FAX 022-238-0331	〒984-0015
新 潟 出 張 所	新潟市西区小新 2丁目 16番 11号 電話 090-7422-8801 FAX 03-3233-0530	〒950-2023
北 関 東 営 業 所	館林市近藤町 178番地 電話 0276-74-6452 FAX 0276-74-6538	〒374-0042
長 野 出 張 所	長野市稲里町中央 3丁目 23番 7号 E-3 電話 080-1013-9542 FAX 03-3233-0530	〒381-2217
静 岡 出 張 所	静岡市駿河区下川原3丁目25番51号 B-101 電話 090-2413-5953 FAX 03-3233-0530	〒421-0113
中 部 営 業 所	名古屋市中村区則武 1丁目 9番 4号 電話 052-451-7191 FAX 052-451-0315	〒453-0014
金 沢 営 業 所	金沢市駅西新町 3丁目 16番 30号 電話 076-201-8611 FAX 076-201-8612	〒920-0027
中 国 営 業 所	広島市安佐南区祇園 3丁目 45番 11号 電話 082-875-8561 FAX 082-875-8560	〒731-0138
四 国 出 張 所	高松市今里町 6番 2号 電話 087-868-5111 FAX 087-868-5551	〒760-0078
九 州 営 業 所	福岡市博多区博多駅南 5丁目 22番 5号 電話 092-431-5523 FAX 092-431-5707	〒812-0016
南九州出張所	鹿児島市宇宿町 2222番地 6号 102 電話 080-1013-9558 FAX 092-431-5707	〒890-0074
沖 縄 出 張 所	那覇市安謝 1丁目 18番 10号 パークサイドM201号 電話 090-7440-0404 FAX 098-867-1167	〒900-0003

《部品サービスセンター》

部 品 課	春日部市緑町 3丁目 4番 39号 電話 048-734-2401 FAX 048-736-6787	〒344-0063
サ ー ビ ス 課	春日部市緑町 3丁目 4番 39号 電話 048-734-2402 FAX 048-736-6787	〒344-0063

・ 館林物流センター ・ 技術研究所 ・ 館林工場 ・ 春日部工場